

2025 年度事業報告

農業農村工学は、「水土の知」という歴史と学術/技術の振興に基づいた STEAM 教育を推進し、人材を育成している分野である。この学会の目的達成のため、定款の定めるところにより、事業計画に掲げた次の事業を実施した。

I. 調査と研究の推進

1. 研究部会による調査・研究

14 研究部会がそれぞれの事業計画に基づいて調査・研究を実施した。研究集会等を開催したほか、8 研究部会が部会誌を発行した。

部 会	部 会 長 (所 属)	会 員 数 (名)	研究集会 等の開催	部会誌発行
応 用 水 理	桐 博英 (農研機構)	55	11月29日	令和7年度「応用水 理研究部会講演集」
土 壌 物 理	渡辺 晋生 (三重大学)	74	10月24日	
材 料 施 工	鈴木 哲也 (新潟大学)	36	12月15日	「材料と施工」 No. 63
農 村 計 画	九鬼 康彰 (岡山大学)	50	12月12日	農村計画研究部会活 動記録
農 業 水 利	松井 宏之 (宇都宮大学)	15	9月2日	
農 地 保 全	藤川 智紀 (東京農業大学)	39	12月4日	第44号
畑 地 整 備	中村 公人 (京都大学)	80	10月16日	「畑地灌漑の研究」 No. 49
水 文・水 環 境	清水 克之 (鳥取大学)	120	11月14 ～15日	「応用水文」 No. 38
農 村 道 路	兵頭 正浩 (鳥取大学)	34	12月19日	「農村道路」35号
水 土 文 化	渡邊 紹裕 (京都大学名誉教授)	8	9月4日	
資 源 循 環	山岡 賢 (琉球大学)	512	9月3日	
農 村 生 態 工 学	鈴木 正貴 (岩手県立大学)	60	9月3日	
農 業 農 村 情 報	溝口 勝 (東京大学)	54	9月3日	
農 業 農 村 整 備 政 策	吉川 夏樹 (新潟大学)	284	6月30日	「農業農村整備政策 研究」No. 12

2. 新たな研究ニーズへの対応

学会の研究活動の発展に対して新しい芽になる研究を行おうとする研究グループの募集を行い、1件の助成を行った。

代表者	所 属	研究テーマ
藤崎 雄大	岐阜大学自然科学技術研究科・院生	新工法「暗渠型水田排水路」導入地域における環境影響評価

また、研究活動が戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献することを目的とした戦略的研究申請支援の募集を行い、1件の助成を行った。

代表者	所 属	研究テーマ
小林 範之	愛媛大学大学院農学研究科・教授	摘果・収穫・自動運搬ロボットによる急傾斜かんきつ園の人-ロボット協働型次世代農業システムの開発

その他、農林水産省からの土地改良施設管理基準「排水機場」の改定や農業用ダムの保全に資する新技術の調査等を受託し、調査検討を行った。

3. 学術基金等による調査研究の奨励

(1)学術基金による調査研究を奨励するため公募を行い、学術基金運営委員会による審査を経て、下記のとおり援助者を決定し、資金を助成した。

また、学術基金への寄付活動も行った。

【学術基金の選定条件】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
- ③ ①，②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進
- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進
- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進
- ⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

申請者	所 属	研究テーマ	選定条件
泉 智揮	愛媛大学大学院農学研究科・准教授	実社会と連携した技術者教育推進のためのオンラインプラットフォームの開発	⑦
河本 裕子	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・研究員	中山間地域の自然資源把握の新たな方法	③
家村 章大	佐賀大学大学院 農学研究科・学生	統合型IoTプラットフォームを活用した斜面崩壊の早期検知・予測技術の構築	⑤
小川 洸生	東京農工大学大学院農学府食農情報工学コース・学生	International Bioacoustics Congress 2025 (IBAC)	④
松原 陽	東京農工大学大学院	International Bioacoustics Congress 202	④

	農学府食農情報工学 コース・学生	5	
--	---------------------	---	--

(2) 学生が博士課程で取り組む研究課題の決定と募集

研究委員会「博士人材育成研究小委員会」は、日本水土総合研究所等と連携して、博士課程で取り組む研究課題の募集を行い、修士課程2年生等を対象に4つの研究課題を定め、4名の学生の支援を決定し、2026年度の研究助成金を支出した。また、2023年度開始の1名、2024年度の5名についても研究助成金を支出した。さらに、修士課程1年生を対象とした2027年度開始の研究課題の募集も行った。各開始年度の支援対象者は次の通り。

開始年度	当初	途中辞退	現在または最終
2022年度	4名	3名	1名（終了）
2023年度	2名	1名	1名（終了）
2024年度	7名	2名	5名
2025年度	4名	3名	1名
2026年度	4名		

4. 社会的状況を踏まえた学生会員への支援

2025年3月13日に理事会を開催し、社会的状況を踏まえて学生会員の2025年度の年会費等を免除することを決定した。

II. 研究発表会、講演会、講習会、セミナー展示会等の開催

1. 大会講演会の開催

2025年度（第74回）農業農村工学会大会講演会は、ポストコロナの社会的状況を踏まえ、対面形式による現地開催とオンラインによる聴講および育児・介護を理由としたオンライン発表を併用した方式で開催した。概要は次のとおり。

期 日 2025年9月2日（火）、3日（水）、4日（木）、5日（金）

会 場 宇都宮大学陽東キャンパスおよびオンライン

参 加 者 1,329人（一般1,087（会場757、オンライン330）、学生242（会場216、オンライン26））

挨 拶 大会運営委員長 田村孝浩
学会長 西村 拓

来 賓 挨 拶 栃木県知事 福田富一（代理・副知事 赤岩弘智）

農林水産省農村振興局次長 青山健治

宇都宮大学学長 池田 宰

学 会 賞 学術賞 1件1名（森井俊廣）

上野賞 2件7団体（中国四国農政局・水資源機構・香川県・香川用土地改良区、北陸農政局農村振興部・富山県・庄川左岸地区農地防災施設管理協議会）

沢田賞 1件1名2団体（営農排水改良技術「カットシリーズ」開発グループ：農研機構農村工学研究部門 北川 巖、株式会社北海コーキ、公益財団法人北海道農業公社）

研究奨励賞 2件2名、優秀論文賞 3件11名、優秀報文賞 3件8名、優秀技術賞 2件8名、優秀技術レポート賞 7件17名、著作賞 1件1名、環境賞 1件1団体、地域貢献賞 2件2団体、メディア賞 2件2団体、功労賞 1件1名

一 般 講 演 9月2日（火）～4日（木） 10会場＋オンライン（Zoom）

口頭発表 一般 304 課題、スチューデントセッション 54 課題、
企画セッション 21 件 84 課題、ポスター発表 71 課題
ポスター賞の選考

【最優秀ポスター賞】東 哲平「環境 DNA 分析による岡山市藤田地区の農業用パイプラインに定着した外来種タイワンシジミの生息分布の推定」

【優秀ポスター賞】福田日穂「湛水土中における表面酸化層の形成に日射や植物根が与える影響」

【優秀ポスター賞】田中健二「頭首工撤去に伴う濁水流下状況の変化が取水管理方法に及ぼす影響」

交流会 : ホテルニューイタヤ・天平 377 人

現地研修 : 2 コース 54 人 (① 県央コース 32 人、② 県南コース 22 人)

① 県央コース 3 カ所 (稲毛田地区 (圃場整備)、赤川ダム (灌漑用水)、岡本頭首工)

② 県南コース 4 カ所 (下稲葉地区 (圃場整備)、美田東部頭首工、思川西部地区 (田んぼダム)、国営栃木南部地区 (排水機場))

農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像! 2025”で「ここだけの! 水土里」に関するテーマで募集し、4 件の応募があり、最優秀賞 1 件、優秀賞 2 件を決定するとともに表彰式を行った。

【最優秀賞】

・神戸大学大学院農学研究科 永谷太志・重吉振一郎 「害虫を祓い豊作を祈願する神秘の祭り～虫送り～小豆島」

【優秀賞】

・内外エンジニアリング(株) 福竹望実・田原郁子 「ここだけの! 水土里 能登の水田～環境保全と農業復興への挑戦～」

・三重大学生物資源学部 辻本彩名 「田んぼさんぽ」

企業展示 20 社 (五十音順)

Re-パイプシステム工法協会、NTC コンサルタンツ(株)、共和コンクリート工業(株)、(株)熊谷組、サンスイコンサルタント(株)、(株)三祐コンサルタンツ、J F E エンジニアリング(株)、ジオテツ工法研究会、昭和コンクリート工業(株)、SERID 研究会、(株)センシズ、(株)竹中土木、鉄建建設(株)、内外エンジニアリング(株)、ナカダ産業(株)、日本工営(株)、農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門、(株)北陽、丸栄コンクリート工業(株)、新潟県水利施設安全施設業協会/ (株)水倉組

2. 各支部研究発表会、講演会、講習会等の開催

6 支部において、それぞれ研究発表会、地方講習会、研修会及び人材確保・育成等に関する交流会等を開催した。

<各支部研究発表会>

(研究発表総件数 337 件、参加者総数 1,305 名、現地見学者総数 88 名)

支 部	開催月日	開催場所	研究発表者件数	参加者数	現地見学者数	本 部 出席者
北海道 (第74回)	10月20日	札幌市 札幌エルプラ ザホール	15 件	130 名	— 名	奥田 副会長

東 北 (第65回)	11月6日	秋田市 ANAクラウン プラザホテル 秋田	43	215	—	西村会長
関 東 (第76回)	11月10日	千葉市 幕張メッセ国 際会議場	44	302	—	西村会長
京 都 (第82回)	11月18日	新潟市 朱鷺メッセ	117	281	33	堀野 副会長
中国四国 (第80回)	10月23日	松山市 松山市総合コ ミュニティセ ンター	68	173	—	森田 副会長
九州沖縄 (第106回)	10月30日	熊本市 ホテル熊本テ ルサ	50	204	45	奥田 副会長

<各支部地方講習会>

(参加者総数約 909 名)

支 部	開催月日	開催場所	テーマ	講師 名	参加者数 名
北 海 道	1月16, 22日	オンライン	新たな食料・農業・農村基本計画、土地改良長期計画についてほか	5	180
東 北	11月7日	秋田市 ANAクラウン プラザホテル 秋田	新たな食料・農業・農村基本計画、土地改良長期計画についてほか	2	108
関 東	11月10日	千葉市 幕張メッセ国 際会議場	新たな食料・農業・農村基本計画、土地改良長期計画について	1	302
京 都	2月10日	金沢市広坂合 同庁舎内会議 室及びオンラ イン（ハイブ リッド形式）	土地改良事業計画設計基準計画「排水」の改定についてほか	2	117
中国四国	10月24日	松山市 松山市総合コ ミュニティセ ンター	新たな食料・農業・農村基本計画、土地改良長期計画についてほか	3	56

九州沖縄	10月30日	熊本市 ホテル熊本テ ルサ	新たな食料・農業・農村基 本計画、土地改良長期計画 について	1	143
------	--------	---------------------	--------------------------------------	---	-----

<各支部研修会>

(参加者総数約 225 名)

支 部	開催月日	開催場所	テーマ	講師 名	参加者数 名
東 北	11月7日	秋田市 ANAクラウ ンプラザホテ ル秋田	地域農業維持に向けた人材 確保と土地利用の実践外1 件	1	108
京 都	2月10日	金沢市広坂合 同庁舎内会議 室及びオンラ イン（ハイブ リッド形式）	直轄災害復旧事業「氷見地区 」の足跡についてほか	2	117

<各支部シンポジウム>

(参加者総数約 424 名)

支 部	開催月日	開催場所	テーマ	講師 名	参加者数 名
北海道	10月21日	札幌市 札幌エルプラ ザホール	北海道農業の発展に向けた 農業土木技術者の育成	7	60
東 北	11月6日	秋田市 ANAクラウ ンプラザホテ ル秋田	スマート農業普及加速化のカ ギは人材育成である ～スマート農業指導士育成プ ログラム～	1	215
関 東	12月5日	日本大学 三軒茶屋キャ ンパス	農業農村工学分野における減 災・防災について	1	6
九州沖縄	10月30日	熊本市 ホテル熊本テ ルサ	地域共創による食資源循環の 取り組みほか	2	143

<各支部人材確保・育成・その他行事>

(参加者総数約 92 名)

支 部	開催月日	開催場所	行 事 名	講師 名	参加者数 名
関 東	3月19日	手賀沼農地防 災事業所	業界セミナー及び現地見学会	2	4

京 都	11月17日	手賀排水機場 茨城県大塚上 地区 新潟市 新潟大学五十 嵐キャンパス	農業農村工学会京都支部若手 技術者交流会2025	—	37
九州沖縄	10月29日	熊本市 ホテル熊本テ ルサ	大学行政連絡会 支部代表幹事会	— 1	25 26

3. 研究部会や委員会による研究集会等の開催

(1) 14の研究部会はそれぞれ次のとおり研究集会等を開催した。

(参加者総数 1,114名)

部 会	研 究 集 会 等			
	開催月日	開催場所	行 事 名	参加者 数
応 用 水 理	9月3日	宇都宮大学陽東キャン パス	企画セッション	21
	11月29日	つくば国際会議場	研究集会	
土 壌 物 理	10月24日	三重大学環境・情報科 学館	第64回研究集会	83
材 料 施 工	9月3日	宇都宮大学陽東キャン パス	企画セッション	53
	12月15日	オンライン	第62回材料施工研究 部会シンポジウム	
農 村 計 画	9月4日	宇都宮大学陽東キャン パス	企画セッション	207
	12月12日	埼玉県	研究集会	7
農 業 水 利	9月2日	宇都宮大学陽東キャン パス	幹事会	
農 地 保 全	9月4日	宇都宮大学陽東キャン パス	企画セッション	40
	12月4日	東京農業大学世田谷キ ャンパス	研究集会	20
畑 地 整 備	9月4日	宇都宮大学陽東キャン パス	企画セッション	30

水文・水環境	10月16日	京都大学	研究集会	74
	11月14 ～15日	鳥取大学農学部	研究集会	24
農村道路	12月19日	三重県教育文化会館	研究集会	28
水土文化	9月4日	宇都宮大学陽東キャン パス	企画セッション	
資源循環	9月3日	宇都宮大学陽東キャン パス	企画セッション	
農村生態工学	9月3日	宇都宮大学陽東キャン パス	企画セッション	70
農業農村情報	9月3日	宇都宮大学陽東キャン パス	企画セッション	
	3月12日	オンライン	勉強会	
農業農村整備政策	6月30日	オンライン	研究集会	246
	9月3日	宇都宮大学陽東キャン パス	企画セッション	92
	1月23日	東京大学弥生講堂アネ ックスセイホクギャラ リー	研究会	119

(2) 行事企画委員会は、全国農村振興技術連盟との共催で第57回中央研修会を開催した。

期 日 2026年2月17日（火）

会 場 交通ビル会議室およびオンライン

テーマ 水と土の未来のために

講 師 4名 参加者数 650名（会場85名、オンライン565名）

(3) 全国土地改良優良工事等審査会は、2024年度全国土地改良優良工事等表彰式に併せて農業農村工学実用新技術セミナーを開催した。

期 日 2025年6月24日（火）

会 場 九段会館2階鳳凰の間

講 師 基調講演1名 フィールド調査2名 受賞者3名

参加者 72名

Ⅲ. 学術と技術の評価及び表彰

1. 学会賞、上野賞及び沢田賞の授与

学会賞、上野賞及び沢田賞それぞれの選考委員会を設置して、学術・技術における優れた業績を選考し、2025年度（第74回）農業農村工学会大会講演会第1日（9月2日）の開会

式（ライトキューブ宇都宮中ホールで開催）後に学会賞授与式を行い、次の30件に授与した。

- 【学術賞】 Rockfill Hydraulics の国内展開とダム保全管理工への実装適用に関する一連の研究
新潟大学名誉教授 森井俊廣
- 【研究奨励賞】 積雪寒冷地における農業水利構造物の凍害・摩耗の診断手法及び補修工法に関する一連の研究
土木研究所寒地土木研究所 石神暁郎
- 【研究奨励賞】 農業用ため池の防災減災対策に関する一連の研究
農研機構農村工学研究部門 小嶋 創
- 【優秀論文賞】 中山間地域での条件不利地への粗放的管理区域の設定方策－農地環境整備事業における保全管理区域の事例研究－
筑波大学生命環境科学研究科 土屋恒久
筑波大学生命環境系 石井 敦
- 【優秀論文賞】 土石流の流入によるため池貯水時の堤体への作用荷重の評価
農研機構農村工学研究部門 正田大輔・吉迫 宏・井上敬資・小嶋 創
防災科学技術研究所 酒井直樹
- 【優秀論文賞】 宇宙線中性子を利用した重粘土の表層土壌水分観測
鹿児島大学大学院連合農学研究科 平嶋雄太
佐賀大学理工学部 橋 基
佐賀大学農学部 徳本家康・宮本英揮
- 【優秀報文賞】 SDGs の視点を活用した多面的機能支払交付金の外部連携の促進
(一財)日本水土総合研究所 石川善成
農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課 栗田 徹
(一財)日本水土総合研究所 山下裕貴・古谷和也
- 【優秀報文賞】 農地整備のSDGsに関する国際世論の高まりとわが国特有の取組み
農村振興局整備部農地資源課 花田潤也
- 【優秀報文賞】 中山間地域での地域づくり手法とその人材育成
前 山形県農林水産部農村計画課 草 大輔・阿部志美
農村づくりプロデューサー 高橋信博
- 【優秀技術賞】 コンクリート水路摩耗状態の簡易な定量評価手法
農研機構農村工学研究部門 木村優世・金森拓也・川邊翔平・森 充広
若鈴コンサルティング(株) 岩田幸大・伊藤三千成
- 【優秀技術賞】 圧力変動を利用した管内漏水検知法に関する現場実証試験
筑波大学生命環境系 浅田洋平
福島大学農学群食農学類 申 文浩
- 【優秀技術レポート賞】 直角V字型減勢工による側方取水の設計と施工
長野県南信州地域振興局 三浦広大
- 【優秀技術レポート賞】 アイスピグ管内洗浄工法を用いた既設管の洗浄事例
北海道オホーツク総合振興局 河端亮一・中川竜一郎
(株)TMS工業 柏谷義博
- 【優秀技術レポート賞】 洪水で被災した水管橋を再利用により復旧した事例
東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所 中澤和彦
日鉄パイプライン&エンジニアリング(株) 吉村 朗・大川大一
- 【優秀技術レポート賞】 鋼管杭工法によるアースダム耐震補強
(独)水資源機構愛知用水総合管理所 宮下武士・吉田 剛
(独)水資源機構中部支社 雪本博志
(独)水資源機構香川用水管理所 富安秀和
- 【優秀技術レポート賞】 自動走行農機に対応した基盤整備による作業時間削減効果
新潟県農地部農地計画課 鶴巻尚斗
新潟県上越地域振興局農林振興部 飯田和貴
新潟大学農学部 中野和弘・大橋慎太郎

- 【優秀技術リポート賞】 荒廃水田の樹園地への転換のための整備事例
岡山県美作県民局農林水産事業部 勝間裕也
- 【優秀技術リポート賞】 筑後川下流左岸地域におけるクリークの先行排水
福岡県農林水産部農山漁村振興課 苑田幸助
- 【著作賞】 『どうぶつみずそうどう』の著作
かじりみな子
- 【環境賞】 農都交流クリエイター
荒川南部土地改良区
- 【地域貢献賞】 長野県上田市 多面活動の事務引受けますー農業生産基盤の適切な維持
管理に向けてー
(一社)農業振興整備ネットワークうえだ
- 【地域貢献賞】 350年の潤いをつなぐ徳島堰土地改良区の取り組み
徳島堰土地改良区
- 【メディア賞】 蘇る農地 綿内りんごの復活にかけた人たち
長野県長野地域振興局
- 【メディア賞】 次世代を担う子供たちに歴史的視点から農業農村工学の社会的役割につ
いて理解を深めてもらえる学習マンガ
(株)NHKエデュケーショナル
- 【功労賞】 農業農村工学分野における技術力評価の明確化と技術者育成への貢献
杉山行男
- 【上野賞】 友情の水を未来に繋ぐ香川用水の更新事業
中国四国農政局
水資源機構
香川県
香川用水土地改良区
- 【上野賞】 新技術等を活用した国営総合農地防災事業「庄川左岸地区」における更新事
業
北陸農政局農村振興部
富山県
庄川左岸地区農地防災施設管理協議会
- 【沢田賞】 営農排水改良技術新世代機「カットシリーズ」の開発と普及に関する一連の
業績
営農排水改良技術「カットシリーズ」開発グループ
農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門 北川巖
(株)北海コーキ
(公財)北海道農業公社

※今年度、技術奨励賞、教育賞、歴史・文化賞、国際貢献賞の該当はなかった。

2. 全国土地改良優良工事等表彰

全国土地改良優良工事等審査会を設置して、優良工事等の中から最優秀賞を選定し、6月24日に九段会館において、次の3件に授与した。

授賞者：戸田建設(株)・第一建設工業(株)

岩手山麓農業水利事業導水路建設工事特定建設工事共同企業体

対象工事：2024年度東北農政局長表彰

岩手山麓農業水利事業 導水路二期工事

授賞者：(株)新井組東京支店

対象工事：2024年度関東農政局長表彰

那珂川沿岸農業水利事業(一期) 大杉山揚水機場改修工事

授賞者：大成建設・大本組児島湾沿岸農地防災事業共同企業体

対象工事：2024年度農林水産大臣表彰

3. 他学術関係団体への賞等の推薦

学術振興のため、また存在意義を強化するため、日本農学進歩賞、文部科学大臣賞若手科学者賞、日本農学会賞、日本農業工学会賞、日本農業研究所賞に候補者を推薦した。その結果、鳥取大学の山崎由理准教授が日本農学進歩賞を受賞、農研機構農村工学研究部門の北川 巖領域長が日本農学賞を受賞、農研機構農村工学研究部門の森 充広領域長が日本農業工学会賞を受賞、農研機構農村工学研究部門の堀 俊和部長が日本農業研究所賞を受賞した。また、農研機構農村工学研究部門の桐 博英所長、琉球大学の山岡 賢教授、鳥取大学の緒方英彦教授、宇都宮大学の松井宏之教授、岐阜大学の平松 研教授が日本農業工学会フェローを受賞した。

IV. 学会誌、その他農業農村工学に関する資料、図書の編集・刊行

1. 学会誌の発行

委員長ほか委員等 27 名、専門委員 67 名による学会誌企画・編集委員会を編成し、3 回の本委員会と 22 回の編集に関連するメール会議、表紙写真の小委員会を開催し、第 93 巻第 4 号から第 94 巻第 3 号までの 12 冊を発行した。本文は合計 1028 頁で、前年度と同様に主として小特集形式で編集した。2024 年に改正された「食料・農業・農村基本法」に関連する小特集として、第 93 巻第 5 号「食料供給の安定化と環境保全に資する農業生産基盤の新たな展開」、第 93 巻第 9 号「農村の振興や農業の有する多面的機能維持への貢献」を掲載した。農業農村工学分野における新技術の活用状況を紹介する小特集として、第 93 巻第 11 号「農業農村整備における情報化施工および BIM/CIM の現状とこれから」、第 94 巻第 2 号「農業水利施設の管理における情報通信技術の最前線」を掲載した。防災・減災を取り扱った小特集として、第 93 巻第 4 号「農村を安全に支えるには」、第 93 巻第 12 号「近年の豪雨による農業用ため池等被災に関連した調査・対策・研究」、第 94 巻第 3 号「農地・農業水利施設を活用した「流域治水」最前線」を掲載した。

2. 論文集の発行

委員長ほか委員 10 名による論文集企画・編集委員会を編成し、1 回の本委員会及び各論文についてオンライン会議をそれぞれ開催して 74 編の論文等の審査を行い、逐次オンラインジャーナルに掲載するとともに、第 320 号と第 321 号の 2 冊を発行した。本文は合計 268 頁で、研究論文 20 題、研究報文 4 題、研究展望 1 題、研究ノート 5 題の合計 30 題を掲載した(2025 年 1 月～12 月で整理)。

3. PAWE 誌の発行支援

PAWEES (国際水田・水環境工学会) による PAWE (Paddy and Water Environment) 誌の編集・発行の調整、投稿の啓発、並びに購読者の確保と配付等を支援した。PAWE 誌はオンラインジャーナルであり、Vol. 23 No. 2 から Vol. 24 No. 1 までの 4 冊が発行された。ARTICLE 39 題、Review 1 題の合計 40 題を掲載した。またインパクトファクターは 2.1 となり、国際ジャーナルとしての位置づけが確立している。

4. その他農業農村工学関係図書の企画・編集・刊行と既刊図書の増刷等による技術の普及

創立100周年記念事業に対応して、「農業用ダム保全管理工学」を発行した。

また、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「排水」、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農地開発(開畑)」、土地改良事業設計指針「耐震設計」の既刊図書の増刷発行を行い、技術の普及を図った。

V. 学術と技術の学際的な連携協力

1. 行政と大学の連携強化についての調査、支援

行政と大学の連携をより一層図り、学会の活性化を進めるため、行政（国等）から大学教員への農業農村整備に係る研究資金等の強化が図れるよう、行政との連携強化を関係方面に要請した。

その一方、大学の抱える課題を理事会や行政と共有し、多様な連携が年々進展し、これまで以上に連携協力が図られた。

2. 農業農村整備事業に関する受託等研究

学術と技術の検討に関する調査研究業務として、農業用ダムの設計・施工・管理技術の高度化、放射性物質で汚染された地域の汚染拡散防止対策技術、土地改良施設管理基準の改定等に関する6件の委託等を受け、研究を実施した。実施に当たっては、農業農村工学以外の専門領域とも連携し、それぞれ専門の学識経験者からなる委員会を組織して対応した。

3. 災害対応等、自主的調査・研究

令和6年能登半島地震に関する支援活動に対して、12月10日に石川県知事より感謝状を授与された。

また、各研究部会は、それぞれの関連学協会と連携協力して自主的な調査・研究を実施した。

4. 関係学協会との各種会議の協賛・後援等

次の23件の行事について、協賛・後援等を行った。

また、人材の育成、確保等について他の団体とも連携協力を行いながら、様々な取り組みを行っており、その一環として、（一社）土地改良建設協会が実施した「国営事業地区等フィールド調査学生支援事業」や「農業農村工学系の大学生のための技術研究所の見学会」について支援を行った。

行 事 名	主催者名	開催年月日	種別
1. 第27回（2025年）日本水大賞	日本水大賞委員会、 国土交通省	2025.03.13 受賞者発表	後援
2. 日本学術会議公開シンポジウム「人口減少社会における小規模分散型社会の実現－地域総合農学の視点から－」	日本学術会議農学委員会 会地域総合農学分科会	2025.06.06	後援
3. 第62回 アイソトープ・放射線研究発表会	公益社団法人日本アイソトープ協会	2025.07.02 ～04	協賛
4. 第2回 国際社会水文学会議 (The 2nd International Sociohydrology Conference)	第2回国際社会水文学 会議組織委員会	2025.07.19 ～21	後援
5. 日本学術会議公開シンポジウム「Soil Healthとは？：土壌の健康の理解・維持向上・共有」	日本学術会議農学委員会 土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS分科会、Soil Health小委員会、 日本土壌肥料学会	2025.07.26	後援
6. 令和7年度 農業農村整備サマーセミナー「食料・農業・農村のこれから」	全国農村振興技術連盟	2025.08.07	後援

7. 国際会議「2025カーカム会議」	復興農学会	2025. 08. 19 ～22	後援
8. 日本混相流学会 混相流シンポジウム 2025	日本混相流学会	2025. 09. 03 ～05	協賛
9. 第41回 ファジィ システム シンポジウム (FSS2025)	日本知能情報ファジィ学会	2025. 09. 03 ～05	協賛
10. 第68回 粘土科学討論会	一般社団法人日本粘土学会	2025. 09. 10 ～12	後援
11. 第67回 土壌物理学会大会「土壌構造と特徴的な物質輸送の解明に向けて」	土壌物理学会	2025. 10. 25	協賛
12. 日本腐植物質学会 第41回講演会	日本腐植物質学会	2025. 10. 25 ～26	協賛
13. 第17回「梶木賞」論文募集	全国農村振興技術連盟	募集締切 2025. 10. 31	後援
14. 2025年度 計算力学技術者(CAE技術者) 資格認定事業	一般社団法人日本機械学会	認定試験日 2025. 11. 16 23, 28, 29, 30 12. 04, 05	協賛
15. 日本エネルギー学会 第13回アジアバイオマス科学会議	一般社団法人日本エネルギー学会バイオマス部会	2025. 11. 18	協賛
16. 日本エネルギー学会 第21回バイオマス科学会議	一般社団法人日本エネルギー学会バイオマス部会	2025. 11. 19 ～21	協賛
17. 令和7年度 ADCA セミナー「農業から広がる国際協力の世界～開発コンサルタントが語る多様なキャリアと ODA の舞台裏～」	一般社団法人海外農業開発コンサルタント協会	2025. 11. 29	後援
18. 土地改良測量設計技術協会 令和7年度講習会「測量設計分野における 三次元データの活用」	公益社団法人土地改良測量設計技術協会	2025. 12. 01	後援
19. GPS/GNSS シンポジウム 2025	一般社団法人測位航法学会	2025. 12. 03 ～05	協賛
20. 未来へつなごう！ふるさとの水土里 (みどり) 子ども絵画展2025	全国土地改良事業団体連合会、都道府県土地改良事業団体連合会	展示期間 2025. 12. 04 ～11	後援
21. 第34回 微粒化シンポジウム	一般社団法人日本エネルギー学会	2025. 12. 09 ～10	協賛
22. 令和7年度 田園自然再生活動の集い～「千」の「地」の「知」～(数多の土地の農に関わる継承知)	一般社団法人地域環境資源センター、田園自然再生活動協議会	2025. 12. 11	後援
23. 日本学術会議公開シンポジウム「人口10万人地方自治体における第一次産業の多様な貢献」	日本学術会議農学委員会地域総合農学分科会	2026. 01. 08	後援

5. 関係学協会との研究情報交換

日本農学会、日本農業工学会等の関係学協会に加盟、あるいは活動に協力し、幅広い学術・技術の研究情報交換を行った。

6. 関係学術・技術団体への代議員・委員会委員の推薦

日本学術会議、日本農学会、日本農業工学会等の学術団体や農業農村整備関係の技術団体に代議員や委員会委員等を推薦し、学術と技術の学際的な連携協力を推進した。

VI. 学術と技術の国際交流

1. 海外関係機関との学会誌・論文集等の文献交換

学会誌は 26 機関、論文集は 46 機関、全体で 53 機関との間で継続的に文献を交換した。

2. 国内外及び国際的関連学会等との学術・技術の交流

韓国農業工学会(KSAE)と台湾農業工学会(TAES)との間で、アジアモンスーン地域における持続可能な水資源と環境の管理等に関する情報交換を行った。

3. 水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際交流

10月27～28日に岩手県盛岡市で開催された PAWEES International Conference 2025 in Morioka 国際研究集会において、関係国で技術者育成に向けた情報交換を行った。

4. PAWEES 活動の支援

PAWEES の理事学会として PAWE 誌の出版のほか、次のとおり PAWEES International Conference 2025 in Morioka 国際研究集会及び国際賞授賞式の開催を支援した。

日時 2025年10月27日(月)～28日(火)

場所 岩手県盛岡市(キオクシア アイーナ)

テーマ Challenges and Innovations for Sustainable Paddy Agriculture with Climate Resilience and / or Ecosystem Services (気候変動に対応した、生態系サービスを備えた持続的な水田農業への挑戦と進化)

【国際賞】

- ① 藤原正幸 (日本)
- ② 小前隆美 (日本)
- ③ Ashish Pandey (インド)
- ④ Jin-Yong Choi (韓国)
- ⑤ Yi-Fung Wang (台湾)

【論文賞】

- ① 沢田賞
Maulana Ibrahim Rau (日本), Atriyon Julzarika, Natsuki Yoshikawa, Takanori Nagano, Masaomi Kimura, Budi Indra Setiawan, Lan Thanh Ha
- ② 論文賞
Qun-Zhan Huang (台湾), Shao-Yiu Hsu, Jie Hu, Yu-Chuan Chang
- ③ 論文賞
Seongju Jang (韓国), Jinseok Park, Hyeokjin Lee, Jaejun Gou, Inhong Song

【査読者賞】

- ① 佐藤賞
Wei-Che Huang (台湾)
Chih-chieh Young (台湾)
- ② 丸山賞
Jinhyeob Kwak (韓国)

【若手研究者賞】

- ① 園田悠介（日本）
- ② Dong-Hyeon Kim（韓国）
- ③ Bing-Chen Jhong（台湾）

【技術賞】

- ① Cho Irrigation Canal Beigang River Aqueduct Project（台湾）

5. PAWEES 国際研究集会の支援

10月27～28日に岩手県盛岡市で開催された PAWEES International Conference 2025 in Morioka 国際研究集会において、幹事国として下記のとおり国際研究集会の開催支援を行った。

日 時：2025年10月27日（月）～28日（火）

テ ー マ：Challenges and Innovations for Sustainable Paddy Agriculture with Climate Resilience and / or Ecosystem Services（気候変動に対応した、生態系サービスを備えた持続的な水田農業への挑戦と進化）

研究集会：27日（月）岩手県盛岡市（キオクシア アイーナ）

交 流 会：アートホテル盛岡（鳳凰の間）

参 加 者：211人（6カ国・地域）

現地研修：28日（火）山王海ダム、豊沢川地区、もりおか歴史文化館・マリオス展望台

参 加 者：71人（5カ国・地域）

Ⅶ. 学術と技術の広報

1. 学会誌、ホームページ及びメールマガジン等により提供

毎号の学会誌、ホームページにおいて、各種行事や公募事項の案内などの情報提供を行った。また、メールマガジンにより、会員、非会員を問わず情報提供を行った。

さらに、農業土木系の農業高校65校、全国専門学校土木教育研究会に属する14校に学会誌の提供を行った。

2. 大学生のためのLINE公式アカウントによる情報発信

若手人材の確保と育成のため、連携協定を締結している土地改良建設協会主導の下に「大学生のためのLINE公式アカウント」で情報提供を行った。友達登録者数は、2,170名を超えている。

3. 会員の意見、要望等を把握し、学会活動等に反映

Webアンケートシステムにより会員等の意見、要望を把握して学会活動等に反映すると共に、学会誌会告欄で支部や研究部会の活動情報の周知に努めた。

4. 関係学協会等との文献の交換

学会誌は171機関、論文集は23機関、全体で188機関との間で継続的に文献を交換した。

Ⅷ. 関係図書その他資料の収集、保管、活用

1. 関係図書・資料の収集、整理、利活用

農業農村工学関係図書・資料について、交換資料と購入資料を収集・整理した。また、学会誌に年表を掲載するための資料の収集、分類を行った。収集資料は、訪問者の閲覧に供し利活用を図った。

2. 科学技術振興機構による J-STAGE への掲載

科学技術振興機構(JST)の総合電子ジャーナルプラットフォーム(J-STAGE)に掲載されていない学会誌報文第 90 巻を掲載するとともに、論文集の研究論文等 40 本を掲載した。

3. 科学技術振興機構への情報提供

科学技術振興機構に、学会誌、論文集、学会大会講演会及び支部研究発表会の講演要旨集の情報を提供した。

4. 農林水産研究情報総合センター事業「AGROPEDIA」への情報提供

農林水産研究情報総合センターから掲載依頼を受け、農業農村工学会誌（第 89 巻第 4 号～第 90 巻 3 号）及び農業農村工学会論文集（第 312 号～第 313 号）の情報を提供した。

IX. 技術者教育認定及び技術者の継続的研鑽の支援

1. 日本技術者教育認定機構(JABEE)の審査認定及び普及指導活動

農業工学及び関連のエンジニアリング分野の審査・認定活動を推進する学協会として、JABEE 認定審査を行った。

なお、JABEE のメリットを活かす対策として学会の要請等を受けて 2020 年度より(公社)土地改良測量設計技術協会は、資格制度を運用する「農業土木技術管理士」資格試験において、JABEE 修了生は第一次試験を免除し、併せて 2024 年度からは受験資格の実務経験年数を 3 年短縮する特例措置の対象となっている。

また、2025 年度より、JABEE 認定校が負担する「審査料」と「認定維持料」の増額・平準化の決定を受け、一般社団法人農業土木事業協会が実施する「農業農村工学 JABEE 大学支援事業」の支援を希望する 12 プログラムの申請書を取りまとめ、2025 年 4 月に同協会へ提出した。(その後、2025 年 7 月に総額 4,015 千円の支援が実施された)

さらに、同事業で支援をする 12 社と、支援を受ける 12 プログラムとのマッチングを諮るため、農業農村工学会ではホームページに「JABEE 大学支援事業に参加される企業が実施するインターンシップ開催概要」を掲載するとともに、12 プログラムが実施する「就職セミナー」や「就職相談会」「特別講義の講師募集」などについて、12 社に対し参加協力要請を行った。

<2026 年 4 月時点での JABEE プログラム：12 教育機関 12 プログラム>

弘前大学	農学生命科学部	地域環境工学科	農業土木コース	[2005]	
北里大学	獣医学部	生物環境科学科	環境修復プログラム	[2006]	
宇都宮大学	農学部	農業環境工学科	水土環境工学及び食料生産システム工学コース	[2003]	
東京農業大学	地域環境科学部	生産環境工学科	農業工学プログラム	[2003]	
三重大学	生物資源学部	共生環境学科	農業土木学教育コース	農業土木学プログラム	[2005]
神戸大学	農学部	食料環境システム学科	生産環境工学コース	地域環境工学プログラム	[2004]
島根大学	生物資源科学部	環境共生科学科	地域工学コース	[2006]	
岡山大学	環境理工学部	環境管理工学科	環境・社会基盤系環境マネジメントコース	[2004]	
愛媛大学	農学部	生物環境学科	地域環境工学コース	農業土木プログラム	[2002]
高知大学	農林海洋科学部	農林資源環境科学科	生産環境管理学プログラム	[2005]	
九州大学	農学部	生物資源環境学科	生物資源生産科学コース	生物生産環境工学分野 生物生産環境工学プログラム	[2005]
琉球大学	農学部	地域農業工学科	地域環境工学コース	[2008]	

2. 技術者継続教育機構等による農業農村工学分野の技術者育成・継続教育の推進

技術者継続教育機構において、CPD 運営委員会 1 回、CPD 地方委員会 1 回、CPD 評価委員会 1 回、CPD 通信教育部会 12 回を開催した。

なお、2025年度末時点でのCPD個人登録者数は14,531名、CPD法人登録者数は194団体で、2025年度内実施の認定プログラム数は1,426件であった。

3. 建設系CPD協議会における建設系技術者の継続教育活動の支援活動

建設系CPD協議会の構成団体として、運営委員会2回、専門部会1回に出席し、建設系全体の技術者育成・継続教育の推進を図った。

X. その他この学会の目的を達成するために必要な事業

1. 日本学術会議等との連携、交流

2026年1月9日(金)に防災学術連携体主催の防災学術連携体10周年記念シンポジウム「63学協会連携の軌跡と防災研究のあり方」で小泉 健専務理事が「現場知に学ぶ農業・農村の災害対応と連携の在り方」を講演した。

また、福島の再生・復興に関係した日本原子力学会や福島復興・廃炉推進に貢献する学協会の活動とも連携・協力した。

2. SDGs への対応等学会の社会的責任（CSR）活動を推進

学会の理事会、各種委員会、大会講演会、支部研究発表会においてハイブリッド形式を用いて参加しやすい環境整備に努めた。また昨年に引き続き大会講演会におけるCD版講演要旨集の作成を廃止しダウンロードにしたことにより、余剰品の製品ロスの削減とプラスチック製品の削減、さらに発送を行わないことによる輸送に関するCO₂の削減にも貢献した。

学会事務局業務にもテレワークシステムを活用して、職員の効率的な業務運営を図った。さらに、タブレットの活用によりコピー枚数を削減し、紙資源の節約や再利用、節電に努めた。また、公益法人としての役割から、役職員による他の団体の理事・委員長・議長など学識経験者として貢献した。

職員が仕事と生活の調和を図り、女性が活躍できる雇用環境の調整を行うため、「公益社団法人農業農村工学会 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画」を策定した。

3. 学会業務のDX化に向けた取組

学会業務のDX化に向けてシステム統合の検討を進めた。電子出勤簿やタブレットを積極的に活用し、業務打合せ、理事会及び各種委員会等資料のペーパーレス化に取り組んだ。また、AIの有料ソフトを導入し、業務の効率化を図った。

XI. 法人運営事項

1. 第58回定時総会

日時：2025年5月28日（水）14:00～14:55

会場：農業土木会館2階A会議室

代議員現在数及び定足数：現在数118名 定足数59名

出席者：代議員87名（うち出席3名、書面により議決権を行使した代議員60名、委任状により議決権を代理行使した代議員24名）

決議事項：

- (1)2024年度事業報告
- (2)2024年度決算（案）
- (3)名誉会員の推挙

2. 理事会

理事20名（会長1名、副会長3名、専務理事1名、ほか15名）及び監事2名により、第284回から第287回まで4回の理事会を開催するとともに、必要に応じて担当理事会を開催して多数の決議事項及び報告事項を承認可決した。

(1) 第 284 回理事会

日 時：2025 年 5 月 12 日（月） 14:00～15:45

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

決議事項：

- ① 2024 年度事業報告(案)
- ② 2024 年度決算(案)
- ③ 2025 年度学会賞、上野賞及び沢田賞
- ④ 会員の入退会

そのほか、活動状況等 15 件の報告を行った。

(2) 第 285 回理事会

日 時：2025 年 9 月 26 日（金） 13:55～15:35

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

決議事項：

- ① 2025 年度支部大会への本部役員派遣
- ② 会員の入退会

そのほか、活動状況等 16 件の報告を行った。

(3) 第 286 回理事会

日 時：2025 年 12 月 9 日（火） 14:00～15:30

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

決議事項：

- ① 会員の入退会

そのほか、活動状況等 13 件の報告を行った。

(4) 第 287 回理事会

日 時：2026 年 3 月 12 日（木） 13:55～15:20

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

決議事項：

- ① 2026 年度事業計画(案)
- ② 2026 年度収支予算(案)
- ③ 第 59 回定時総会の議案
- ④ 名誉会員の推挙
- ⑤ 会員資格喪失予定者
- ⑥ 第 8 期代議員の定数
- ⑦ 会員の入退会

そのほか、活動状況等 11 件の報告を行った。

3. 企画委員会

委員長ほか委員 10 名により、2 回の委員会を開催し、事業計画案と予算案、事業報告案と決算案、その他学会全般の活動・運営について検討を行った。

4. 監 査

2025 年 4 月 16 日に堀田昇克監事、4 月 18 日に重岡徹監事が 2024 年度事業報告及び収支決算に関わる全般の監査を行い、その結果を第 284 回理事会並びに第 58 回定時総会に報告した。

5. 会員数

2025年度及び過去2ヶ年度の会員数の動向は下表のとおりです。

区 分	2023年度末	2024年度末	2025年度末	2025年度内 増 減
正 会 員	9,577	9,500	9,342	-158
学 生 会 員	301	317	346	+29
名 誉 会 員	243	248	259	+11
計	10,121	10,065	9,947	-118
賛助会員A級	30	30	30	±0
” B級	8	8	7	-1
” C級	86	86	86	±0
計	124	124	123	-1

付記事項

2025年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。